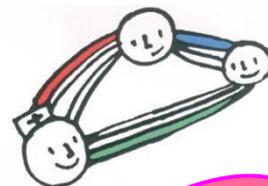


訪問看護ステーション

ネットケア



15周年記念号

ホットな

ハートの

ネット

ケア



ネットケア誕生15周年を記念して



医療法人真誠会

理事長 小田 貢

訪問看護ステーションネットケアが開所して15周年を迎えました。

ネットケアという名前は、ネットワークを駆使してケアをするという意味で私が命名しました。当時は世間的にはインターネットの使用も少なかったため、ネットワークという認識が少なかったので、ネットケアの意味を理解していただけなかったかもしれません。

実際に私がネットケアを命名したときにインターネットで調べたときにはネットケアは殆ど見当たりませんでした。ところが15年後の今、ネットケアを検索するとたくさんの方がネットケアという名前を使っています。(本当は私がオリジナルの造語だと思っております)

また実際に医療、看護の現場でも15年経った今では、ネットワークによる情報の共有なくしては質の高いケアは出来ません。今後はi-PadなどのITを駆使したネットワークでさらに充実した訪問看護を目指さなくてはなりません。

特に来年(平成24年)には地域包括ケアが始まります。主治医、ケアマネージャー、訪問看護、訪問介護などが一体となったケアを提供する時代になってきます。ネットケアの力をさらに発揮できると思います。

真誠会としてはこれらのサービスを一体とした包括ケアのサービスが提供できるように今から準備しております。



利用者様提供

医療法人真誠会

訪問看護ステーション ネットケア

TEL24-6777

FAX24-3077

ホームページ <http://www.hospitown.or.jp>

平成23年6月1日



15周年を迎え

訪問看護ステーションネットケア

所長 岡田悦子

平成8年6月1日に開設されたネットケアは地域の皆様、医療・介護関係者に支えられ、お陰さまで15周年を迎えることができました。

現在看護師6名、理学療法士1名で、境港～日野川周辺、米子駅周辺までと広い範囲を回っています。利用者の方は現在、難病ケア、ストーマケア、終末期ケアとそれぞれが1割以上占め、当ステーションの特徴となりました。

10周年の時には、制度改革によって訪問看護の提供の場が自宅外と広がり、契約上での定期訪問、そして急性期の入居者の訪問と、現在2ヶ所のグループホームへ訪問しています。

平成24年度は医療・介護保険制度が改正となります。今年は地域包括ケアに向けた準備期間として、他職種と共にさらにネットワークを張り巡らせながら、更に成長すべき年だと考えています。

利用者の医療ニーズの高度化や家族機能の変化、医療・介護保険制度、看護人材、など訪問看護を取り巻く環境は、日々変動していきます。常に情報を得て、スキルアップを図りながら、より良い生活の支援ができるようにしてまいります。



身体状況がどういうレベルの方であっても、在宅生活の中でその方の生活の質を維持、向上できるよう支援するのが私達の役割です。「口から食べたい」「この家で最期まで暮らしたい」「その時が来たら呼吸器を選択する」様々な人生観をうけとめながら、その人らしく生活ができることをめざします。



利用者様提供



利用者様提供

訪問看護師への期待（その1）

看護・介護統括部長 三ツ木育子

この4月、看護・介護統括部長に就任いたしました。私の看護師歴は、基礎教育も臨床実践も40年、全て大学病院しかありません。入職した頃はそうでもありませんでしたが、医療が機能分担化されて後は、急性期医療の現場で、ICU・手術室外科病棟と経験を積んできました。

訪問看護を知ったのは、マネジメントをするようになってから、医療福祉支援センター業務や地域連携パスの運用を通してでありましたので、私にとりましてはまだ未知の分野であります。

しかし、団塊世代の65歳到来を直前にして、超高齢化社会の医療を支えていくのは、福祉であり、地域であり、在宅であり訪問看護であります。

病院や施設で支えきれない医療依存度の高い患者さんやそのご家族、地域が訪問看護を待ち望んでいます。まさしく看護師のケアの対象である患者・家族・地域そのものです。

国の政策も看護医療保健制度改革が進み、10年間の歩みの中から地域包括ケアシステムが完成しようとしています。

看護師は「保・助・看法」が定める専門業務

1. 診療の補助 2. 患者の身の回りの世話 を専門職として、知識と技術に基づく適切な判断で安心して安全な「なるほど・さすが」看護を提供していかなければなりません。

これからの地域医療を支える要です。その自負を持って1事例、1事例を大切に関わっていかれる事を期待します。

ネットケア 15周年へのメッセージ

真誠会医療福祉連携センター センター長 小山雅美

私は、相談員の仕事をしています。いつも頼りにしているのがネットケアの看護師さんです。

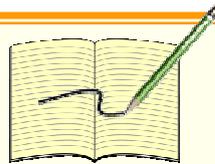
相談業務の中で、相談者の生活をどのようにその方らしく、その方の想いに添うようにと相談を行っていく中で、医療面が置き去りにされることがあります。その時に、ネットケアへ相談をすることで、在宅での生活がその方の想いに添えるような形で医療面も含めたアドバイスをもらえます。とても心強い存在です。

人は一人で生まれ、一人で死に逝くとされています。その時々で、誰かに支えられながら私たちは生活しています。その最後のステージを、「住み慣れた我が家で過ごしたい。過ごさせてやりたい。」ご本人やご家族の想いを叶えるためにも、ネットケアの役割はとて大きくなります。そんな時に、ご本人・ご家族、そして主治医やケアマネジャーをも支えてくれるのがネットケアの皆さんです。最後の時を邪魔することなく、陰で支え続ける。そして、残された家族にも添い続ける。とても心強い存在です。

いつもお互い切磋琢磨しながらチーム医療・チームケアを行っていると思っています。これからは、もっともっと意見を交わし合いながら、ご本人の想いに添う生活ができるよう支援できるチームづくりができればと思います。

近年の研究業績

【2008 年度】



第 6 回日本臨床医療福祉学会 (2008.8.29)
遺族訪問時のプロセスレコードからの質的分析
～訪問看護師としての関わりから見えてきたものから～

【2009 年度】

訪問看護師のストレス調査
～ストレスの要因と対処法について～ (2009.2)

【2010 年度】

前頭側頭型認知症の在宅ケア
～夫婦と一緒に生活したいという思いに
寄り添う～ (2010.2)

第 41 回日本看護学会 地域看護(2010.10.14)
訪問看護ステーション実習における
連携に関する学びの構造



【2011 年度】

在宅療養中の
オストメイトの QOL に関連する要因と必要な看護 (2011.2)



下の写真と句は、利用者様の作品です。日々、利用者の生活を支援しつつその質を高められるようなかかわりを看護師一同心がけています。

